

## 7. 環境像の達成に向けて

平成23年度の指標の達成状況、施策の実施状況を踏まえ、目標年度に向けた展望を以下に示します。

基本目標 1 自然環境の保全と創出をはかり、  
人々がゆたかな自然の恵みを実感できるまちをめざします

いくつかの指標において未着手の項目がありますが、全体的に指標の実施・達成状況は良好であり、計画の目標年度に向けて、着実に施策を推進しています。

### 【みどりの保全・創出と活用】

都市公園の面積は482.4haとなり、すでに目標値(460.7ha)を上回っています。この要因としては、近郊緑地特別保全地区における土地の買い取りなどによる都市林の増加が主なものですが、今後も適切に維持管理を行うとともに、自然環境のふれあいの場としての公園整備を進めることが重要です。

近郊緑地特別保全地区の新規指定や公共施設緑化指針の策定など、未着手の施策については、今後のみどりの保全や創出、活用を図る上でも重要な施策と考えます。これらの施策の着実な実施に向けて、準備・検討を行っていくことが求められます。

なお、みどりの基本条例に規定した制度については、着実に検討、制度化を進めています。今後は制度化に向けた検討だけでなく、制度の適正な運営や見直しを図っていくことが必要です。

### 【水辺環境の保全・創出と活用】

多自然型河川や、10,000メートルプロムナードなどの海とふれあえる水際線については、整備の促進が図られています。砂浜などの再生・整備については、庁内での検討を開始したところですが、平成24年度に新たに設置する「横須賀港浅海域保全・再生研究会」での検討も含め、事業実施に向けた検討を進めていくことが重要です。

そのほか、河川や海域環境に関する取り組みは、ハード整備・ソフト事業ともに推進が図られているところです。特に東京湾側の海(港湾区域)については、平成17年3月に策定し、平成23年度に中間評価を行った「横須賀港港湾環境計画」に基づき、長期的かつ総合的な視点から、東京湾の貴重な自然環境を適切に管理・保全するとともに、市民が海にふれあえる空間を創出していくことが重要です。

### 【生物多様性の保全・再生と活用】

エコツアーの実施については、実施場所の調査など検討を進め、猿島、観音崎、大楠・西海岸の3カ所を実施場所として選定しました。今後は、選定した3カ所において、着実にエコツアーを実施するとともに、未着手となっている「生物多様性保全のための戦略」や「自然植生保全配慮指針」の策定に向けて、検討を進めることが必要です。

### 【自然災害の防止と抑止】

平成23年度は、災害時の防災拠点となる「(仮称)佐原2丁目公園」の整備のほか、雨水排水施設や大津地区海岸高潮対策事業などの実施により、災害対策に関するハード整備を進めました。一方で、自然災害の抑止につながる施策はほとんどが未実施となっています。引き続き災害防止のための施策を推進するとともに、未実施の施策を着実に実施することが必要です。

## 基本目標2 生活環境の保全・改善をはかり、快適に暮らせるまちをめざします

全体的に指標の実施・達成状況は良好です。

### 【生活環境の保全・改善】

大気汚染・振動・悪臭に関しては、全ての項目で指標を達成しています。これらを維持できるよう施策を実施することが重要です。

水質および土壌については、全体的には概ね指標を達成しており、良好な状態にあります。公共下水道や合併処理浄化槽の促進などを計画的に進めており、生活排水処理率は94.3%（前年度比0.3ポイント増）と指標に掲げた目標値に徐々に近づいています。また、合流下水道の改善についても整備を進めた結果、88.5%となっています。今後も、工場等に対する排水基準遵守の徹底や、処理区域内の下水道未接続世帯に対する接続の継続的な指導、処理区域外における単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への設置換え等を促進するとともに、さらなる水質の改善に向けて、合流式下水道の改善や下水の高度処理等、必要な整備に努めていく必要があります。

騒音については、幹線道路沿道において、指標を達成していない地点があるため、周辺の住居等の状況を踏まえた低騒音舗装等の対策が必要です。

また、歴史的・文化的遺産については、周知、啓発等に関する様々な施策を進めており、指標の実施状況は良好です。今後も歴史的・文化的環境の保全と継承を図るため、これらの施策を継続して実施していくことが重要です。

## 基本目標3 低炭素社会を構築し、地球環境問題に対応したまちの実現をめざします

「市域の温室効果ガス排出量」を除き、全体的に指標の実施・達成状況は良好であり、計画の目標年度に向けて、着実に施策を推進しています。

### 【地球温暖化対策の推進・エネルギー対策の推進】

平成23年度は再生可能エネルギーや省エネルギーに関する施策を中心に進めました。本市の市域における平成23年度の温室効果ガス排出量は、平成25年度に把握可能となるため、これらの効果による温室効果ガス削減量は不明ですが、東日本大震災以降、エネルギーに対する施策の実施が今まで以上に求められていることから、今後も継続して、再生可能エネルギーや省エネルギーに関する施策を着実に実施することが重要です。

市の事務・事業から発生する温室効果ガス排出量については、基準年度(平成20年度)と比較して6.6%の削減であり、目標である5.0%を達成しました。平成23年度は、東日本大震災の影響による電力供給不足の懸念により、市役所でも一事業者として、横須賀市環境マネジメントシステム(YES)を活用し、徹底した節電の取り組みを実施したことなどから、目標を上回ったと考えられます。市民の規範となるためにも、今後もこれらの取り組みを継続・維持する必要があります。

## 基本目標4 循環型社会を形成し、環境負荷が少ないまちの実現をめざします

ごみの減量化・資源化、適正処理に関して、さまざまな施策を推進していますが、指標の達成のためには「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」に基づいた施設整備が必要な状況にあるため、達成には時間がかかる見込みです。

### 【ごみの減量化・資源化、適正処理の推進】

ごみの排出抑制、資源化、適正処理が促進され、市のごみ排出量および焼却量は減少しています。施設整備以外の方策により、さらなる「ごみの減量化・資源化、適正処理の推進」を図る必要があります。

ごみの資源化率は、前年度比で若干減少したものの、全国・県内平均と比較しても、引き続き高い水準で推移しています。資源化率の維持に向けて、現在の取り組みを継続することが重要です。

なお、ごみの埋め立て量については若干の増加傾向にあります。この要因としては、不燃ごみの排出量が増加したためと考えられます。今後は、不燃ごみの排出量削減や資源化に関する取り組みをより推進することが必要です。

その他、市民・事業者におけるごみの排出抑制活動や、レジ袋削減のための取り組みを継続して推進するとともに、ごみ処理の有料化などの手法も検討する必要があります。

## 基本目標5 市民、事業者、市の協働により、 環境的側面、経済的側面、社会的側面の統合をはかります

全体的に指標に関連する施策の実施状況は良好です。計画の目標年度に向けて、着実に施策を推進していますが、地域経済・社会が縮小傾向にある本市においては、より一層の「環境的側面・経済的側面・社会的側面」の統合に向けた取り組みが必要な状況にあります。

### 【環境教育・環境学習の推進】

子どもから大人まであらゆる年齢層において、また、市民、事業者、市など様々な立場において、環境に対する知識と理解を深め、主体的に環境保全活動に取り組む必要があります。

平成23年度は、環境教育を指導・推進する人材の育成として、相互交流を生かした人材育成講座などを開催しました。また、環境学習の場の提供として、市民大学、コミュニティセンターなどで各種講座を開催しています。

今後も環境教育・環境学習の推進のため、人材の育成、場の提供や整備などの施策を、体系的に実施していくことが重要です。

### 【経済・社会活動との調和】

経済との調和については、公共事業における環境配慮や、EVなどの普及促進のための取り組みを実施しました。また、社会活動との調和については、市民公益活動団体への補助など、活動に対する支援を実施しています。

今後はこれらを継続するとともに、「持続可能なまち よこすか」の実現に向け、新たな取り組みについても検討する必要があります。

－平成23年度 未実施（未着手）の施策等－

平成23年度に未着手、未実施の施策（事業）は次のとおりです。今後は、これらの施策を着実に実施していく必要があります。

○ みどりの保全

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
エ 緑地保全のための基金の充実および新たな財源確保策についての検討	土地の買取りのための緑地基金の充実および新たな財源確保(環境政策部環境企画課)	・平成25年度以降に「市民協働樹林地保全制度」の検討と併せて検討していく予定

○ みどりの創出

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
オ 自然の魅力を生かした公園・緑地の整備	公園施設長寿命化計画の策定と推進(環境政策部公園建設課)	・計画の策定について検討を進める
サ 地区計画区域内における緑化率を定める条例の検討	地区計画等緑化率条例(環境政策部環境企画課)	・緑化地域制度と併せて検討を進める予定
セ 谷戸地域のみどりの再生に関する検討	谷戸地域のみどりの再生に向けた検討(都市部都市計画課、環境政策部緑地管理課)	・谷戸地域対策検討委員会を開催したが、みどりの再生についての検討は進めていない ・今後は、「みどりの基本計画」に基づき検討を進める

○ 生物多様性の保全・再生

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
ア 動植物などの調査・研究の推進による、生物多様性の保全・再生施策への活用	公園などにおける自然植生保全配慮指針(環境政策部環境企画課)	・自然植生を有する2カ所の都市公園について調査を実施するとともに、指針を策定するための準備を行う
	貴重な植物の保全のための調査等(環境政策部環境企画課)	・自然海岸の後背地に自生する海浜植生の実態、調査を様々な主体と連携し、季節ごとに実施する予定
オ 生物多様性保全・再生の基本的指針の策定	生物多様性地域戦略の策定に関する検討(環境政策部環境企画課)	・生物多様性地域戦略の策定に関する検討を行う予定

○ 自然災害の被害の軽減

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
ア 活断層上やその周辺の建築物における安全性の確保の検討	「土地利用基本計画」策定事業(都市部都市計画課、開発指導課)	・土地利用の調整に関する指針に基づき、活断層上やその周辺での一定の開発行為、建築行為等を抑制するための基準づくりを平成22年3月まで検討を行った結果、当面は基準作りは困難と判断した
イ 土地の高度利用におけるオープンスペースの拡充	市街地における適正な土地の高度利用に関する条例運用事務(都市部都市計画課)	・高度利用を行う地区毎に検討を行う予定

○ 水・土壌環境の保全・改善

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
エ 下水の高度処理施設の導入の検討	高度処理の導入 (上下水道局技術部技術推進課)	・実施時期について検討している

○ 歴史的・文化的環境の保全と継承

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
カ 史跡や歴史的街並みや原風景の保存	史跡や歴史的街並み,原風景の保存 (教育委員会事務局教育総務部生涯学習課)	・「衣笠城跡」の史跡環境整備にあたり、地質調査と測量を実施し、史跡景観に配慮した崩落防止対策工事を計画する

○ 都市交通に係る環境負荷の低減

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
オ EV(電気自動車)の補助制度やインフラ整備などの検討	EV普及事業の実施 (環境政策部環境企画課)	・商工会議所、庁内関係課で組織する重点プロジェクト推進検討会議で検討

○ ごみの減量化の推進

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
イ ごみの減量化についての普及啓発活動の実施	「環境にやさしい買い物キャンペーン」の普及・啓発の実施 (環境政策部環境企画課)	・市内商店街に対し、「環境にやさしい買い物キャンペーン」の普及啓発を実施

○ 環境教育・環境学習の推進のための体制づくり

施策の方向	事業名(担当部担当課)	未実施の理由又は今後の予定
オ 環境教育に係る人材育成制度の検討	(仮称)「環境力もち」づくり推進事業 (環境政策部環境企画課)	・環境教育・環境学習ネットワーク会議のトライアル事業として「相互交流を生かした人材育成講座」を開催している。この成果なども踏まえ、制度化について検討を行う予定
キ 市民、事業者、市の連携および協働による環境教育・環境学習の取り組みの実践	環境教育・環境学習ネットワーク会議シンボル事業 (環境政策部環境企画課)	・市域の環境教育・環境学習を牽引するシンボル事業として、ネットワーク会議で検討を行う